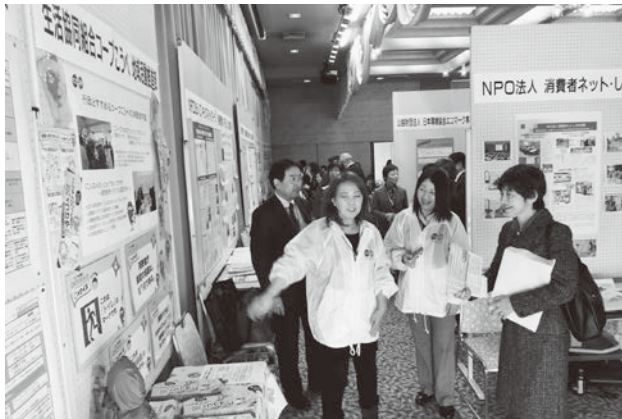




# 兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2016 **3**



神戸市やコープこうべの壁新聞コーナーで説明に耳を傾ける 消費者庁 板東 久美子 長官



平成27年度 近畿ブロック地方消費者グループ・フォーラム in 和歌山  
学んで、気づいて、つながって～すべての地域で安心して暮らしていくために～  
主催：「地方消費者グループ・フォーラム（近畿ブロック）実行委員会」/ 消費者庁

2月8日(月)、近畿ブロック 19 団体・機関の消費者団体による実行委員会と消費者庁が主催し、「学んで、気づいて、つながって～すべての地域で安心して暮らしていくために～」をテーマに、「平成 27 年度地方消費者グループ・フォーラム in 和歌山」が開催され 197 名が参加。参加団体の活動報告や壁新聞での情報交換、活動についてのグループ討議などが行われました。（関連ページ P.3）



コープこうべ 理事  
兵庫県生活協同組合連合会 理事  
**新保 雅子**  
(しんぼ・まさこ)

## 1 たす 1 を 3 に

2012年を国際協同組合年と設定し、神戸の地でICA地域総会が開催され、今まで以上に協同組合間協同の志が強く結ばれました。

購買生協と医療生協、医療生協と大学生協、農協・漁協と購買生協というように多くの生協が協同の力で1たす1を3にも4にもしてきています。

時には行政と手を組むことで地域とつながる工夫も考えられています。

1921年、コープこうべが神戸で購買生協として設立されてから2021年に100周年を迎えます。

ご用聞きから始まったコープこうべの組合員の暮らしを助け守ってきたのは「家庭会」です。買い物をする大半は女性ということで、洋裁の講習会や家計簿のつけ方、お習字やそろばんと今でいうカルチャースクールの役目や食の安全の勉強会。時にはお店の店をお願いするため多くの新組合員を集めたりと事業にも大きな力を発揮しました。

コープこうべの大きな一輪だったと思います。

ただ、現在はその大きな存在を受け継いできた組合員も少なくなり、組合

員活動に新風を吹き込まないといけない時代になったと感じます。

働く女性が増え、PTAや自治会、子ども会や婦人会など関わりを持つことを避けようとする世代がどの地域でも多くなっています。神戸の地震の後近隣のつながりが大事だと誰もが感じただけです。防災は水や食料を備蓄するだけではなく、隣近所にどんな人が住んでいるのか、高齢者の一人暮らしの方はいるのか、車いすの方はいないかなどを知り、自分の住む地域で色々とながりの持てる居場所としてコープのお店を活用していただくためにも、出資金は会費ではなく組合員が出資し、利用し、運営する。自分の利用する店舗を少しでも利用しやすいお店にするための出資であり、そのために意見や要望を伝える。

したい事をやれるような活動に、今こそ参加して、自分の地域が住みやすい場所になるため、これからの未来に一步踏み出しませんか。一緒に。

## CONTENTS

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>2. 想点</li> <li>3. 第5回理事会 報告／<br/>「地方消費者グループ・フォーラム in 和歌山」報告</li> <li>4. 東日本大震災5年 震災支援の取り組み 報告<br/>生活クラブ生活協同組合都市生活／神戸医療生活協同組合／<br/>ろっこう医療生活協同組合／全労済兵庫県本部</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5. 生活問題研究会 研修 報告／<br/>単協通信 阪神医療生活協同組合</li> <li>6. 協同組合のかけ橋</li> <li>7. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓</li> <li>8. 「瀬戸内海環境保全特別措置法」改正 署名活動感謝状 報告／<br/>兵庫 JCC「協同組合研究・交流会」報告／県連日誌／編集後記</li> </ul> |
|---|--|

# 2015年度 兵庫県生協連 第5回理事会報告

I. 開催日時 2016年2月1日(月) 午後1時56分~3時30分

II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」

III. 出席者

本田会長理事、高橋副会長理事、野間専務理事、板崎、福島、新保、伴、大沼、酒井、嶋、本多、藤井（以上、理事）、藤田、金丸、山添（以上、監事）

## 決議事項

- (1) 兵協連 2015 年度収支見通しと 2016 年度収支予算案について
- (2) 兵協連 2015 年度活動報告および 2016 年度活動計画案について

## 協議事項

- (1) 2016 年度第 66 回通常総会に向けての手順スケジュール案について

## 報告事項

- (1) 分野別生協からの活動報告について
- (2) 前回理事会～2月上旬までの兵協連行事、活動報告について
- (3) 2016年2月～2017年1月までの「主要行事スケジュール」について

## 地方消費者グループ・フォーラムin和歌山

### 「学んで、気づいて、つながって

～すべての地域で安心してくらししていくために～

2月8日(月)、プラザホープ大ホール(和歌山県和歌山市)で「平成27年度 地方消費者グループ・フォーラムin和歌山」が開催され、「学んで、気づいて、つながって～すべての地域で安心してくらししていくために～」をテーマに、地域で消費者問題に携わる消費者団体、市民、行政関係者など197人が集いました。今年で6回目となるこのフォーラムは、地元の消費者団体等による実行委員会と消費者庁との共催で実施され、多様な主体が相互に情報交換を行い、交流・連携を深めることを目的としています。

17団体が参加した「壁新聞交流会」では、各団体・行政の活動内容の展示の前で活発な情報交換を行い連携を深めました。また、消費者庁 板東 久美子 長官の取り組み報告のあとに行われた壁新聞出展団体の5分間のリレートークでは、神戸市市民参画推進局市民生活部消費生活課から「消費者教育の体系図～『取組主体』『ライフステージ』『重点領域』の3軸による～」について。コープこうべ地域活動推進部から「兵庫県補助事業 消費

者トラブル防止のために『クイズラリー』と『学習ツール』について。適格消費者団体 NPO 法人 ひょうご消費者ネットから「“Stop! ザ・泣き寝入り” シンポジウムの出前講座で各地の市民と連携」についての活動紹介がありました。

そのあと、「『つながって』いくために、自分たちができること、したいこと」をテーマにグループ討議が活発に行われ、今後の地域活動の連携の広がりを感じるつどいになりました。



グループ討議で交流を深めました

# ～「忘れない」。復興への歩みとともに…～

東日本大震災から5年。被災地とともに、兵庫県生協連の会員生協をはじめ全国の生協の仲間が、現在も支援活動に取り組んでいます。防災・減災への教訓を次世代に継承しながら息の長い支援が続けられています。

## ●生活クラブ生活協同組合都市生活「大人のリフレッシュツアー」と「こころ」への支援

これまでの福島県の親子を招いたり、レッシュツアーを通じて、子どもや家族の世話から解放された、大人だけでリフレッシュするニーズを痛感し、大人のツアーを始めました。2度目となる今回は6名が参加されました。日程は12月5日～6日の1泊2日。初日は北野の散策と神戸ルミナリエの見学、夕食は主催した生協の関係者らとの交流会。2日目は元町・三宮近辺の散策という行程です。私たちにとっては「福島のいま」を知る貴重な機会ではありますが、主催者が媒介役となって参加者どうしが福島では話しづらい心情を語り合ったり、参加者どうしの横のつながりが出来たりといった成果を感じています。子どもには聞かせられない親の苦悩や本音。福島県では放射能汚染の不安を分かち合う機会が徐々に失われつつある実情。そのような切実な状況を知るにつけ、大人の「こころ」に寄り添う支援が求められていることを実感しています。

(通信員 小松 高志)

※当生協は、生活協同組合エスコープ大阪ならびに認定NPO法人都市生活コミュニケーションセンターと、3団体の協同による支援活動を行っています。



神戸ルミナリエ会場にて

## ●神戸医療生活協同組合 変わり行く被災地の状況を見続ける大切さを

2015年の震災支援ボランティア活動は6回、延べ40名が参加しました。この5年間で46回の活動に、延べ341名が支援活動に参加しました。宮城県山元町をはじめ、福島県富岡町等の現地見学や、女川町の復興状況視察、石巻市での地元設立の支援センターでの健康チェックへの参加等、被災地の現状を知る機会を増やしました。被災地の課題は地域で大きく違いますが、共通するのはコミュニティの確立だと感じます。同時に、そのための場作りへの支援がとても大事な時期に来ているとも感じています。

(通信員 堤 茂)

2016年度も引き続き、宮城県山元町を中心に定期的な支援ボランティア活動を実施していきます。



老人いこいの家で生活支援

## ●ろっこう医療生活協同組合 被災地によりそい、元気を届けていきたい

ろっこう医療生活協同組合では、縁あって、岩手県大船渡市で支援活動に取り組んでいます。発災当初は、避難所での健康チェック、その後は、大船渡市の被災者健康実態調査に協力して、自宅や仮設住宅を訪問して聞き取り調査と健康チェックをしてまいりました。そして、一昨年から、仮設住宅で歌体操を広めながら「お茶っこ」(茶話会のことです)を開催してきています。また、昨年は、神戸でもできることをと、地元商店街の皆さんのご協力も得て、「大船渡支援・水道筋さんまつり」を開催しました。

さんま1000尾を大船渡から直送してもらい炭火で焼いて提供したのですが、予想をはるかに上回る評判となりました。東日本大震災から5年。いままなお仮設住宅で暮らす方々、復興住宅や再建した自宅に移り住んだ方々、被災地のニーズはさまざまに変化してきています。阪神淡路大震災の経験が少しでも現地にお伝えしながら、協同組合らしい市民目線の支援活動をこれからも続けていきたいと考えています。

(通信員 森本 浩)



仮設住宅の集会所で歌体操

## ●全労済兵庫県本部 あれから5年……、東日本大震災を風化させない取り組み

全労済では、被災されたすべての皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、東日本大震災を風化させないためさまざまな取り組みを行っています。被災地や避難者の子どもたち向けに「全労済のよみきかせ会」を2012年11月より開始し、125カ所の保育園・幼稚園などで延べ11,576人の子どもたちを対象に実施しました。全労済兵庫県本部においても阪神・淡路大震災から20年を迎えた2015年1月に県内28カ所の保育園・幼稚園などで延べ1,856人の子どもたちを対象に実施しました。その他、被災地や避難者の子どもたちを対象とした「親子で学べる防災クイズ」、「きずな公演(ミュージカルや演奏会など)」、「絵本を届けるクリスマスプロジェクト」、「被災地の子どもたちの森づくり支援活動」などさまざまな活動を行いながら、最後のお一人まで共済金をお支払いするため継続した告知活動を行っています。今後も東日本大震災を風化させない取り組みを行っていきます。

(通信員 中川 純一)



「全労済のよみきかせ会」の様子

# しっかり知って、しっかり選べる消費者に

～「生活問題研究会」研修で製薬会社を訪問～

今年度の生活問題研究会のテーマ「世代を問わず、関心の高い“サプリメント”～どうしたらより良いものを選べるのか、広告宣伝をどう読み解くのか」に沿って、2月17日(水)研究会メンバー、事務局など8名で、栄養食品や医薬品、生理食塩液やリンゲル液などの輸液を製造する「大塚製薬株式会社 徳島工場」を訪問しました。

サプリメントは厳格な品質管理のもと米国で製造されていますが、国内で製造されている「医薬関連事業製品」や「ニュートラシューティカルズ（Nutrition 栄養 + Pharmaceuticals 医薬品 = 健康維持を手助けする）関連事業製品」などは、委託生産はほとんどなく、グループ管理し安全・安心・根拠を持った製品づくりが行われています。近年、ジュニアスポーツにも取り入れられている「サプリメント」。食育と並行しての摂取、うまくつき合う方法など、消費者の立場として、どう利用するのが課題になっています。

参加者からは、「サプリメント、機能食

品、補助食品など、見極めて選ぶことが重要と思った」「消費者として補助食品であることをしっかり把握しなければいけないと思いました。三食きちんと食べて、その不足分を補うための食品であることが、消費者にあまり伝えられていないことを再認識しました。ここをしっかりと伝えていけるのは生協だと実感。組合員のみなさまにお伝えできる取り組みを考えたい」などの感想が寄せられました。

健康維持に関心を持つ人が増え健康に対する意識は近年高まっています。分からないまま選ぶことのないよう、いろんな角度からの視点を持って組合員に伝えていきたいと思っています。



栄養食品の製造過程を見学する参加者



ガラスやボトルを経てバッグ容器になった輸液の展示

## 単協通信

5 ● 兵協連だより

この「雪まつり」は今年で24回目  
を数え、地域  
で冬の風物詩  
となっていま  
す。園田支部  
を中心とした  
多くの地元実  
行委員会が準  
備から一切を  
取り仕切り、  
参加者も1、  
000名を超  
える大イベン



香美町からトラック3台分の雪が運ばれました



雪を手に大喜びの子どもたち

2月11日、阪神医療生協園田支部では、恒例の「雪まつり」が行われました。真冬にしては驚くほどの暖かさに恵まれたこの日、兵庫県香美町からトラック3台に満載された雪が地域の公園に届きました。  
この雪は毎年、香美町のご好意で運ばれてきます。積もった雪をめぐってに見ることの少ない子供たちは、大喜びで跳んだり触ったり大騒ぎ。お母さんと雪だるまを作る小さな子供たち。早速、雪合戦をする子供たち。

トになっています。  
生協園田支部長の山下道子さんのあいさつで始まり、中村理事長は東北被災地から秋刀魚を送ってもらい、売り上げを被災地に届けることを報告。おいしそうな焼き秋刀魚のおいが漂うなか、あつという間に500尾が完売。市長も毎年参加され、市民との交流を楽しまれています。

(通信員 舟越義晴)

阪神医療生活協同組合

雪まつりに千人を超える皆さんが参加

# 協同組合のかけ橋

JF

## (一社) 淡路水交会

### 第40回 淡路のり品評会 開催!! ～優秀品24点が選ばれました～

(一社)淡路水交会(東根 壽会長)主催による淡路のり品評会は、生産者の意識の向上と生産技術の研鑽を図



る目的で毎年開催されており、今回も12月上旬から1月上旬までに、島内で生産された乾のりについて審査が行われました。

今年で40回目となったこの品評会は、2月3日(水)洲本市の淡路水産センターで開催され、系統団体、県洲本農林水産振興事務所の関係者ら10名の審査員が、応募のあった83点の中から第一次審査で選ばれた50点を対象に審査を行いました。今年も良い出来栄えのノリが出揃ったため、審査員らは頭を悩ませたようですが、優秀品24点が選ばれ、最上位の兵庫県知事賞は桑名水産(JF育波浦)が受賞しました。

最後に、審査員を代表してJF兵庫漁連のり海藻事業本部 高瀬 博文本部長が「生産開始が遅れてはいたが、良いノリが出揃った。今後も、“淡路のり”が漁期をとおして順調に生産されることを期待します」と講評を行いました。

なお、今回も出品されたノリはすべて味付け加工して、福祉施設等に無料配布することになっています。



どのノリも品質は良く、審査は難しかったようです

JA

## 兵庫県農協青壮年部協議会

### 農業経営の確立や 地域社会に根ざした活動を

兵庫県農協青壮年部協議会は、若手農業者で組織された県内5つのJA青壮年組織で構成されており、盟友(会員)数は183人です。

同協議会は、相互協力して情報交換や学習活動を行い、安定した農業経営の確立や地域社会に根ざした活動に取り組んでいます。

10月にJAたじま八鹿総合営農生活センターで、地域のリーダーとしての意識向上を図るため、JA青壮年部交流会を開催しました。「青年の主張」



“食農教育”と“職農教育”について発表する岩岡青年部の代表の安尾拓也さん

では、JA兵庫南青壮年部会の盟友が『俺が跡を継ぐ!』と題し、祖父の農業経営を継ぎ、尊敬する祖父を越えたいという地域や自身の農業経営に対する熱い思いについて発表しました。続いて「青

壮年組織の活動発表」では、JA兵庫六甲西神戸農業経営者協議会岩岡青年部が『食と職の壁～私たちの使命』と題し、“食農教育”に加え、地元の小学生に栽培から販売までを体験してもらう“職農教育”を実践していることについて発表し、最優秀に選ばれました。岩岡青年部は、1月に開催された近畿地区JA青年大会でも最優秀賞を受賞しました。

また、12月にはJA兵庫南の6次産業化拠点施設「にじいろふぁ～みん」で地域の特産品をPRし県産県消



にじいろふぁ～みんを訪れた子どもも食農イベントに参加

をすすめる、食農イベントを実施しました。盟友らが持ち寄った各地域の特産品の販売、県産モチ米を使った餅つきの実演やつきたて餅を入れたぜんざいの販売を行い、多くの来店客で賑わいました。



## 若者の消費生活相談（苦情）状況

兵庫県内の県・市町消費生活センターで受け付けた平成27年度上半期（4～9月）の消費生活相談（苦情）状況について、特に、若者（契約当事者：29歳以下）に係る相談に着目して取りまとめました。

### 1. 若者の消費者トラブルはアダルト情報サイトに関するものが依然トップ

27年度上半期（4～9月）の全年代の苦情相談件数は20,949件。そのうち若者に係る相談は2,248件で、26年度上半期の2,378件と比較し130件減少（△5.5%）しています。

若者に係る相談2,248件の中で、インターネット情報サービスが795件（35.4%）を占めており、そのうち、アダルト情報サイトに関するものが470件（59.1%）と約6割を占め、昨年度に引き続きトップとなっています。

### 2. 出会い系サイトに関する相談が1.4倍に

出会い系サイトに関する相談は、26年度上半期の66件から27年度上半期には90件と約1.4倍に増加しています。

「男性の悩みを聞けば謝礼を払う、と記載のあった副業サイトに登録。相談相手とやり取りするためには、出会い系サイトの登録ポイントを購入する必要があるとのことだったので、消費者金融から借り入れたお金でポイント代40万円を支払ったが、全く謝礼を受け取ることができない。騙されたのか」といった、利益を得ることを目的にサイトを利用して生じたトラブルが多く見られます。

### 3. マルチ商法に関する相談が増加

マルチ商法に関する相談は、全年代では26年度上半期の202件から27年度上半期225件と11.4%増加しています。

27年度上半期相談件数225件のうち若者に係る相談の割合は、84件（37.3%）で約4割を占めており、若者の間でマルチ商法が広がっていることがうかがえます。

「会員を増やせば利益になる」、「誰でも簡単に儲かる」といった甘い言葉には注意しましょう。

（兵庫県生活科学総合センター）

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

## ヨッシーの窓

『兵協連だより』をご覧のみなさま、こんにちは。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江です。

ヨッシーの窓は、四季を巡り、また春へと戻ってくることができました。これもひとえに、みなさまのおかげです。ありがとうございます。

さて、先月に引き続き、消費者団体訴訟制度についてお話をさせていただきます。消費者団体訴訟制度には、「差止請求」と「被害回復」の2つの制度があります。このうち被害回復について、見ていきたいと思えます。被害回復は、新しい制度で、平成28年中に実施されることになっています。被害回復を行えるのは特定適格消費者団体と定められています。特定適格消費者団体は、今ある適格消費者団体の中で、さらに内閣総理大臣の認定を受けた団体のことを言います。認定を受けるためには、活動実績や経理的基礎などのいくつかの要件があります。

ひょうご消費者ネットも、現在、被害回復も行える特定適格消費者団体を目指しています！被害回復制度の内容については、また次回とさせていただきます。（「ヨッシーの窓」は、今後も掲載させていただくことになりました！

また、よろしくお願ひ致します）

（ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記）



連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C  
TEL：078-361-7201 E-mail：office@hyogo-c-net.com

# MOVE

## 兵庫県生協連

### 「瀬戸内海環境保全特別措置法」改正成立 感謝状を拝受

兵庫県生活協同組合連合会は、瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生しようと、他団体とともに平成19年、国に提出する141万人の署名活動に取り組んだことが評価され、会員生協の生活協同組合コープこうべ、生活クラブ生活協同組合都市生活とともに、「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」にて感謝状を拝受しました。

2月8日(月)、兵庫県公館(神戸市中央区)において、瀬戸内海沿岸の35府県市でつくる「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」主催の「瀬戸内海環境保全特別措置法改正記念シンポジウム」が開催されました。昨年10月、豊かで美しい瀬戸内海をめざす「瀬戸内海

環境保全特別措置法」の改正が成立したことを受け、署名活動などの法改正に尽力した団体な



23団体に感謝状が贈呈されました

どに感謝状が贈呈されたものです。豊かで多様な生態系と自然環境を保全することで、私たちに多くの恵みを与えてくれる里海。森・川・海などの貴重な財産を次代へ継承するため、今後も環境活動を継続して参ります。

## 豊かな海を育む漁業の現場を学ぶ

### 兵庫JCC「協同組合研究・交流会」を開催



JF 坊勢 姫路とれとれ市場

2月12日(金)、兵庫県内の協同組合4団体で組織する兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は、JF坊勢(姫路市)にて「2015年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会」を開催。生協・JA(農協)・JF(漁協)・森林組合の組合員、役職員など37人が参加しました。

この交流会は生産者と消費者が交流することで、お互いを理解し合い、今後のさらなる協同・連帯を促進することを目的に開催されています。

姫路市家島町に浮かぶ魚の島「坊勢島」に渡り基



水槽のヒラメの泳ぐ速さにビックリ わかりやすくパネル展示された水産加工センター

幹産業である漁業や島の暮らしについてのお話を伺ったあと、幼稚仔育成施設を見学。また、漁協が経営する、人気の直売施設「JF坊勢 姫路とれとれ市場」や兵庫県漁連の水産加工センターを訪れました。加工センターではタコの丸洗いや選別、魚の開きまで機械で行われている様子を見学。地元の素材を取り入れ、季節感を大切にしながら加工品が作られています。

参加者は「若者の漁業者が増えないなどの厳しい環境のなかでも工夫や仕掛けを講じられ、島の活性化に取り組まれていることに感心しました」「もっと兵庫の魚を食べていこうと思いました」などの感想が寄せられ、協同組合間の相互理解を深めました。兵庫JCCでは、今後も職員と組合員の交流の場をつくっていきたいと考えています。

#### 編集後記

今年の「JCC協同組合研究・交流会」(上記参照)はJF兵庫県漁連のみならずにお世話になり、姫路の坊勢島に渡り、島の暮らしの実情や漁業について学びました。

「つくり育てる漁業」を推進し、沿岸漁業の漁獲量安定と、養殖漁業の持続的な養殖生産を確保していくために設置された幼稚仔育成施設。普段、私が目にするのはパックにラップを掛けられたヒラメ。水族館で見ると、攻撃や自衛のためにじっと動かないように見事に擬態しているヒラメ。なんとなく、「速く泳がないよね」と想像していましたが、目の前の水槽にいるヒラメがビュンビュン泳いでいる様子にビックリ!ちなみに、先月からずっとお気に入りのチョコを食べ過ぎていた私は、乗るうか、どうしようかと、体重計を見つめながら、ヒラメのようにキョロキョロと目が泳いでいます。(中尾)

#### 県連日誌

- 3月7日(月) 2015年度ひょうご消費者セミナー (県民会館 パルテホール)
- 3月8日(火) 兵協連 第3回医療生協部会 (県民会館 ぼたん)
- 3月11日(金) 兵協連 『兵協連だより』通信員・広報担当者研修 (県民会館 902)
- 3月16日(水) 兵協連 第2回医療生協部会 (組織担当者会議)
- 3月17日(木) 兵協連 ピースアクション委員会 (県民会館 ぼらん)
- 3月22日(火) 兵協連 第6回生協活動委員会 (県民会館 ぼたん)
- 3月31日(木) 兵協連 第3回保健・医療・福祉研究会 (県民会館 302)